

特116

686

簾

平

2-2



始



号116
686

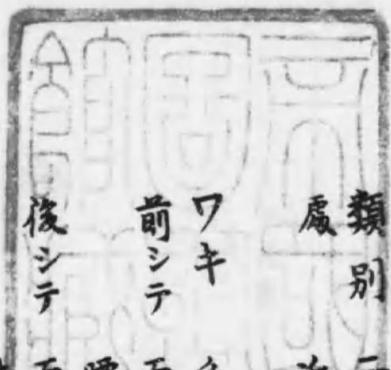
兼平 内卷之二ノ二

此、曲前ハ総シテ閑カナレド後ハ手強ク謡ヲ宜シトス
役別 ワキ 旅僧 前シテ 舟人
後シテ 今井兼平

季 四月

類別 二番目(脛羅物)
處 近江國淡賀郡粟津原

裝束附



ワキ 角帽子 着附無地鬘斗目 水衣 緞子腰帶 扇
前シテ 面朝倉(笑尉ニモ) 尉髪 着附無地鬘斗目 茶挂水衣 緞子
腰帶 襟浅黄 尉扇指ス 棹後見ヨリ渡ス
後シテ 面平太 黒金 梨子打烏帽子 白鉢巻 着附段厚板
法被 丰切 紋付腰帶 襟浅黄 太刀佩 修羅扇持

造り物 舟

二枚表

一枚裏

次才二段「始めて梳を信濃路やト開カニ返シサラリメニ名乗ハ開カニ通行分ラリメ
ニ道此後那のう枕ト開メル心矢括乃備子まろきと返シ開メル心ニテ謡フベシ
一声二段半越世乃業のサラリト謡ヒ出シあふくトワキハカツテ出是ち山田
矢括乃備子毎シテハ開カニてななもトワキハサラリト毎段謡くたびは
トカリ「あもくト開カニ「あもく」毎段謡くたびは

大正 11.30 内交

二行表

えくるワキハサラリト「ふる折るを」ト開カニ「矢標を流す」トシテワキ二人ニテ開カニ
ニ譲フベシ
「是ハ又」初同ハサラリト具合ヲ付ケテ譲ヒ「〜」返シ開メル心ニテ
譲フベシ

一行表

「夕子」私頭殿「トワキハシツカリサラリト是ヨリ名所ヲ放ヘル條ニテ型ノアル
所ナレバ文句ヲ考ヘ心シテ譲フベシ凡テワキハサラリトシテハ開カニ譲フ「佛」宗
ノ願」トカ、ツテ出「震且」のト開メル心「傳教大師」ヨリ氣ヲカハ「赤城定惠」トワキ
ハカ、ツテ「三塔」とあづき」トシテモカ、ツテ「人あま」トワキハ輕ク地へ渡シ「念
三子の」ニ、同ハサラリト受ケ「月乃」横川を流るるや」ト開メル心「松又」麓
ハト受ツテノビヤカニウツキリト「粟津」早く「まよきり」返シ開メル心ニテ譲
フベシ茲ニテシテハ中入

六行表

「露」を片敷草枕」待譲ハサラリト「お花陰」や「吊」もん」返シ開メル心
ニテ譲フベシ

六行表

「一」声ニ段本越「白」双骨を碎々「若」み」ト手強ク譲ヒ出シ「踏」花枝乱す」ト
開メル心「雲」水乃」ヨリ氣ヲ愛ヘテ「周」はくりそ」地ハサラリト「修」原乃ち海なき
さわが」や」ト手強クサラリト譲フベシ

六行表

「か」ぎやな」トワキハカ、ツテサラリト以下ワキハ凡テカ、ツテ譲フ「おろく」尋常
もの」ト鏡ク出デ「魚」平是迄「あ」る」ト確リ「や」今みる「夢」の」此詞
カ、ツテ「早」くも「忘」せ給」や」トワキハシツカリト「其」舟人こそ「魚」平」ト手強
ク舟人とも「あら」ば」ヨリシテモワキモカ、ツテ段々ト結メル心「武」士乃」ト地ハサラリ

四行表

ト受ケ「だ」をせ「お」人や」ト少シ開メル心
「美」や有「お」生「死」乃」クリハスラ」ト譲ヒ「唯」是「權」花「一」日乃「榮」」トシテハ鏡ク「石」
馬の家」ト地ハ受ケテ「魚」平「御」田より「ま」り「お」ひて」シテハ心シテ手強ク「ま」ぬ「三」百
余「跡」は「成」ぬ」ト地ハ開メル心「その」ち「合」戦「お」く「ま」く」トシテハ氣ヲ愛ヘ「今」ハカ
「お」」ヨリ地ハサラリト取り「松」糸「を」て「流」石」ト下ニテ開メル心ニテ譲フベシ

一行表

「魚」平「ヤ」根」曲ハ下ヨリ手強ク出デ文句ニ從ヒ緩急アリ「お」ね」木「勇」殿ハ
ヨリ心持ヲ愛ヘテ「比」まむら」き乃「ま」つ」上端シテハ手強ク「ま」め」あ「が」ら」ト
地ハ受ケテ「び」き「お」ろ」ら」ら」る」も「ゆ」ぬ」ト心シテ「ま」行」お」ら」ん」まの
果」ト少シ開メル心「お」ん」方「を」あ」く」ヨリ氣ヲ愛ヘ「ん」久」人」給」ハ」ト開メル心「お」
く「より」あ」り」き」ん」シテハ手強ク「今」ぞ「命」ハ「つ」き「弓」の」ト地ハ受ケ「先」吊」ひて
き」び」給」ハ」ト開メル心ニテ譲フベシ

此様ニ番ノ譲ニニツノ上端ノアルヲ二段曲ト云フ初メノ上端ハ重メニ後ノ上端ハ輕メ
ニ譲フヲ宜シトス凡テ二段曲ハ皆然リト知ルベシ

七行表

「実」痛」つ」き」物」咎」」ロギ地ハサラリトシテハ手強ク譲フ「大」音」お」げ」トシテハ掛ケテ
「今」井」乃」即」トシツカリト「魚」平」ト」ト地ハ抜ケヌ様ニ着ケテ譲ヒ「舟」より」ヨリ
少シ進ム心「お」刀」を」く」り」入」つ」あ」ら」ま」ぬ」お」ち」て」ト心シテ「目」を」お」ろ」ろ」あ」い」ま」ぬ
返シ開メル心ニテ譲ヒ納ムベシ

急平

釋

多^マ岐^キと^ト糍^シと^ト信^シ宗^{ソウ}踏^{トウ}也^ヤと^ト中^{チュウ}の^ノ女^メ曾^{ソウ}の^ノ行^{コウ}也^ヤと^ト事^ジ也^ヤ

行^{コウ}也^ヤと^ト事^ジ也^ヤと^ト判^ハ定^{テイ}是^シの^ノ女^メ曾^{ソウ}の^ノ山^{ヤマ}家^カ

よりあつる僧きて作^サ抄^{セウ}そ女^メ曾^{ソウ}殿^{テン}の

は別^{ベツ}あつるつら^{ツラ}原^{ハラ}と^ト果^カ路^ロひ^ヒたる^ト由^ユ

原^{ハラ}の^ノ道^{ミチ}は^ハ信^シ宗^{ソウ}と^ト弟^{テイ}ひ^ヒつら^{ツラ}やと

抄^{セウ}の^ノ原^{ハラ}は^ハ信^シ宗^{ソウ}と^ト弟^{テイ}ひ^ヒつら^{ツラ}やと

野のかり花。おも重なり。目と傍てい
 きの程。めくひ路。夫橋の浦。よ
 又きうく。世もあし。の。と
 牙。あつ。業。あ。たう。あ。は。ら。り。う。う。
 後。あ。く。具。船。便。船。う。う。

ちよ。老。の。田。是。橋。の。渡。一。舟。あ。て
 も。あ。は。流。人。久。業。積。た。る。舟。あ。て。の。程
 一。便。船。あ。て。の。舟。あ。て。の。程。一。舟。あ。て
 と。分。中。で。う。た。折。第。渡。う。舟。あ。て
 志。家。あ。て。の。舟。あ。て。の。程。一。舟。あ。て
 を。渡。して。の。舟。あ。て。の。程。一。舟。あ。て
 舟。あ。て。の。舟。あ。て。の。程。一。舟。あ。て

程みしニヨ如ド渡トク得セン船早舟上物...え...る...格...外...

ふ...れ...ハ...ル...ヲ...モ...忍...江...ノ...海...ノ

野...橋...を...渡...る...舟...あ...ら...る...を...小...の...格...外...の...渡...

舟...也...是...の...航...運...を...わ...る...染...舟...

ノ...ウ...ク...平...に...め...油...を...の...建...掉...れ...如...也...

ま...あ...人...な...れ...と...法...ノ...人...あ...て...ま...ら...ぬ...き...を...

舟...を...渡...す...い...ふ...で...惜...し...ム...ま...さ...く...も...あ...ら...れ...

三...ニ...行...く...如...行...ノ...船...頭...殿...と...ム...人...ま...る...も...公...

み...て...渡...る...舟...浦...山...の...皆...名...前...の...舟...

作...ら...る...舟...に...教...人...并...舟...の...皆...名...前...の...舟...

舟...を...渡...る...舟...に...教...人...先...向...ひ...て...當...て...

大...山...ノ...舟...を...渡...る...舟...に...教...人...大...山...ノ...舟...

ま...は...比...教...山...を...て...久...藤...ノ...山...三...十...一...社...

志...き...り...た...る...舟...ノ...穴...王...寺...が...津...坂...寺...

の人家は跡のあまのつゝ ^下 梅はら
比敷山^{ミナト}の山城よりうらうらと一^ノ當りては
よあま ^{ミナト} 中^{ミナト}への事支^{ミナト}我^{ミナト}の山城
の鬼門を守りて悪魔を松の三あらは
^多一松葉の影と申ぬ竹やの鶴鳥のさざめ
かたきとれが又天宮山^{ミナト}の早ももなるの震^{ミナト}具^{ミナト}
四^{ミナト}月^{ミナト}の洞^{ミナト}もさうきと傳教大師相^{ミナト}成^{ミナト}

天皇^{ミナト}のまのむら^{ミナト}の^{ミナト}は^{ミナト}さ^{ミナト}へは^{ミナト}暦^{ミナト}年^{ミナト}
中^{ミナト}の^{ミナト}清^{ミナト}草^{ミナト}釘^{ミナト}我^{ミナト}の^{ミナト}松^{ミナト}の^{ミナト}跡^{ミナト}の^{ミナト}根^{ミナト}
根^{ミナト}系^{ミナト}中^{ミナト}堂^{ミナト}の^{ミナト}山^{ミナト}上^{ミナト}の^{ミナト}跡^{ミナト}の^{ミナト}根^{ミナト}
ては ^{ミナト}梅^{ミナト}の^{ミナト}大^{ミナト}宮^{ミナト}の^{ミナト}跡^{ミナト}の^{ミナト}根^{ミナト}
とあらんもほらの坂本^{ミナト}うらうらとては
は ^{ミナト}梅^{ミナト}の^{ミナト}大^{ミナト}宮^{ミナト}の^{ミナト}跡^{ミナト}の^{ミナト}根^{ミナト}
の ^{ミナト}大^{ミナト}宮^{ミナト}の^{ミナト}跡^{ミナト}の^{ミナト}根^{ミナト}

きて入る 解 劣者や一坊 定む意有
信性出来し 守時心 執が牙はも頼も
きう狂人 作らざらん 佛心生通
ども牙あはれ 僧も我も隔ちあら
一仏業あり 早 峯よさき 志あり 梢を
あらへ 簾よ止 観心海をたへ
赤戒定 惠入 三学よき 三塔と

あづひ 早 一人あま 一念三ふの 機
と顯りて 三千人の 応徒とおき 圓
融の法を 曇あり 朔の横り 色を
有りや 抄又 麓のり 及び 志實辛時
乃一 抄七 抄の 神興の 抄の 梢成へ
し 抄の 後ろ 三あり 棹の 抄の 抄の
遠なる 向ひ くら 浪雲 葉津の

森きつつく成て松をまきのゆはの昔
 おうらへ山極の青葉もて面影も夏
 山乃うらりゆもま海の業松の志づく
 も眼う惜まらあかんのうきよく
 疾きのみの葉は早く遠くはかりく
 露をうり敷きまはく目の暮は
 も叶の葉はの原も花の中にあは

陰のさも葉はくらく白又ほ
 を碎きをきしし眼睛もわう紅はたて
 を流てもうらちひ旅は花をしも
 雲水乃葉葉の原乃羽はま
 修路乃ち復たき
 草松よ甲冑を帯しみし花は
 かわがわもか上りもわめ業津の原乃

中入りてまゝ使はらるシカレ 夢ろシカレと事
 給ふお水清り方是に兼つる名を執り
 手記をとりし馬入シカレ指しめてまゝ使
シカレ きひや兼平是送まのしとシカレ 井
 若原兼平の今ふは母のあひ人なり
 儲り事とて有り候シカレ らも今ふる事
 のこら現ももともあま草のあひく

乃てシカレ 物辨早くも志ひつらシカレ ち
 ても事とてみえシカレ と笑橋の浦に渡
 守乃シカレ 具取人シカレ 兼平が現よらん
シカレ 一シカレ 兼平のシカレ はまの松始り候ある
 人ともえつらシカレ 梅の咲る人かシカレ 毎人
シカレ ともあらシカレ 漁丈もシカレ ありぬシカレ 事
 笑乃笑橋の浦に渡守乃笑橋の浦

七渡一守と云え〜の我々〜
此等と云法乃舟より入て我とま
た波岸より了してたぢせ給ぢら
宮も有馬は義のちある致つて
名も若くは〜前及不同夢幻泡
影行まあら〜
馬乃家よき今月の日〜

其の七渡と云く本曾成此の
踏下トア〜
ひて又二音入〜
戦多〜
か〜
二騎栗津八松原

して落^トお^ノふ^クる^下。其^レ義^ニ平^ノや^シも^ハな^カら^ズなり^キ
 声^ノ敵^ノ大^ニ勢^トが^シて^ハ長^シが^シま^シら^ズる^中防^ノ矢^ハは^シら^ズ
 と^シて^ハ釣^ルの^ノ手^ノ綱^トと^シて^ハさ^シら^ズる^中木^ノ曾^ノ殿^ノ所^ノ後^ト
 力^ノま^シら^ズる^中の^ノ敵^トと^シて^ハな^カら^ズる^中母^ト
 一^ツ可^クよ^クあ^ラら^ズる^中や^シも^ハな^カら^ズる^中故^ト
 と^シて^ハな^カら^ズる^中一^ツ給^ルハ^シ義^ニ平^ノ亦^ト也^ナ
 様^ノこ^ノの^ノ情^トま^シら^ズる^中敵^トハ^シな^カら^ズる^中木^ノ曾^ノ殿^ノ

人^ノ手^ノま^シら^ズる^中の^ノ敵^トと^シて^ハな^カら^ズる^中故^ト
 和^ノ康^ノの^ノ自^ノ害^ト有^ルべ^シと^シて^ハ井^ノも^ハな^カら^ズる^中
 事^ノ現^ルと^シて^ハ義^ニ平^ノよ^クあ^ラら^ズる^中又^シて^ハひ^トを^シ
 一^ツ落^スお^ノふ^クる^中木^ノ曾^ノ殿^ノの^ノほ^シを^シ
 今^ノも^ハな^カら^ズる^中一^ツ落^スお^ノふ^クる^中原^ノ忠^ノ前^ノあり^キ
 なる^中松^ノ原^ノさ^シて^ハ落^スお^ノふ^クる^中は^シな^カら^ズる^中
 の^ノ来^ルつ^クる^中ま^シら^ズる^中寒^ノ入^ルの^ノ此^ノ教^ト

つら成る雲はくさもくはらりあわ
しも浦路入来たらあつのも氷深田
馬をさかまきせしきまをひらうて
ぞもゆるぬら月つりあをひんえ
わこそてま行とあらん牙は果まん方を
あくあきれさく此ま自害をせむ
とて刀の手にて御おひりかたあてを

魚平が行旅あやうきき方がのびとを
うと給へんまらつらりまのきん
今ぬつと馬の美あつてあてうち甲
よからやしらぬ羊あてまらませバ
だまりもあつて馬より知らちを
あしめる可ぬ家ぞ持よとせし生君の
は餅とを吊ひしてきひぬ

引突痛

ワシマ物語。後平乃序。寂期。行とら
あり。分。給。ひ。き。る。兼平。か。く。そ。も
ち。ら。で。戦。其。際。少。も。惣。室。お。供。を
下。は。か。ら。ら。り。あり。相。な。思。ひ
も。敵。の。守。ま。き。て。木。曾。殿。う。さ。れ
給。ひ。想。と。よ。う。の。聲。を。き。り。を
今。行。さ。る。期。と。ま。き。思。ひ。定。て。兼

平。当。是。そ。寂。の。意。言。し。鑑。ん
せ。り。大。音。あ。げ。木。曾。殿。の。内。は
今。并。の。口。鼻。兼。平。と。お。つ。り。か。き。て
大。勢。よ。り。つ。く。い。ま。は。お。つ。り。一。時。當
千。の。秘。術。を。頭。大。勢。を。震。け。入。行
上。は。つ。め。く。儀。の。儀。ま。り。き。り
上。は。手。十。女。字。の。打。破。か。き。通。つ。て。其

273
1061

復製不許



大正五年十一月廿五日 印刷
大正五年十二月一日 發行

訂著作者 觀世元滋

京都市上京區三條通麩屋町東北角

發行兼 印刷者 檜常之

印刷所 江川堂

（電話番町八六一）

（圓電話上二千百九十九番）
（振替貯金大隆千六百八番）
東京市四谷區傳馬町貳丁目十九番地

復製不許の旨を
手本として
つらき處より
おちてつら
みきりたね
びらか
家後
志
を
つら
あり
き
あ
る
く

終

